

## 郷土資料館ふるさと再発見講座

### 名勝ピリカノ幌尻岳学習会



3月1日、レ・コード館で、一昨年に名勝ピリカノ力に指定された日高山脈の主峰幌尻岳の学習会が開かれ、会場は参加者で満席となりました。

3名のパネリストは、日高山脈の成り立ちや、幌尻岳の登山について、また、高山植物の紹介などを行い、新冠町の財産である幌尻岳の自然の神秘について分かりやすく解説しました。

## 第2回プラスワンセミナー

### 北大生に聞く勉強と大学生活



3月7日、現役の北海道大学薬学部教授と学生3名がレ・コード館を訪れ、町内の小中学生と保護者に対し、化学の実験教室と大学生活についての講演を行いました。

この事業は、大学の様子を知ってもらうために社会教育課が企画したもので、化学の実験教室では、シップ作りなどが行われ、子どもたちの興味を引きつけていました。

## 日高中部青年会議所主催講演会

### 小樽あんかけやきそばに学ぶ



3月9日、レ・コード館研修室で、日高中部青年会議所主催の講演会が開かれ、小樽あんかけ焼きそば親衛隊長の坂田理氏が講演しました。

坂田さんは、あんかけ焼きそばの取り組みが始まった当時の小樽の様子や、B-1グランプリで入賞を果たすまでの地域の人たちとの関わりや苦労話などをスライドを使って説明しました。

## 3・11東日本大震災から4年

### 新冠小学校で特別授業



3月11日、東日本大震災から4年目となったこの日に、改めて当時の状況を振り返えろうと新冠小学校で特別授業が開かれました。

子どもたちは、実際に被災地でボランティア活動を経験した原田先生からスライドを使いながら津波被害について説明を受け、その後、給食時間には、備蓄してあった非常食用のカレーを食べました。

## 農業支援員の田川さん

### 2組目の就農者



3月6日、泉生活館で、農業支援員田川さんの解雇辞令交付式が行われ、研修期間中の受け入れ農家や関係者が見守る中、田川さんは農業者としての第一歩を踏み出しました。

田川さんは、平成24年から農業支援員として採用になり、東京から家族6人で町に移り住み研修を積んできました。そして、昨年の秋から、泉地区にピーマン栽培用のハウスを建設し、新規就農に向け準備してきました。

式の中で、田川さんは、「地域の方をはじめ、多くの方々に支えられてここまでこれました。これから一杯努力していきたいです。」と感謝と今後の決意を述べました。



## 乳幼児健診と

### 平成26年度出生数



3月24日、保健センターで平成26年度最後の乳幼児健診が行われ、乳児から3歳までの子ども13名が、身長や体重の測定、歯科検診、発達相談や医師による診断などを受けました。

また、会場では、親子が絵本を通して一緒に時間を過ごして欲しいと、図書プラザから絵本のプレゼントとボランティアサークル「ぐつ・ぱ」による絵本の読み聞かせも行われ、参加者は、楽しいひと時を過ごしました。

平成26年度の一年間に、町内で生まれた子どもの数は41名と昨年度とほぼ同数で、役場保健福祉課の担当者は、「子育てについての問題や悩みなどがあれば、気軽に相談して欲しい」と話していました。

## 季節外れの大雪

### ビニールハウス倒壊などの被害



3月11日、発達した低気圧の影響で町内全域が大雪に見まわれ、太陽地区では約60cmの積雪を観測しました。

一晩で降った雪は特に山間部で多く、ピーマン農家では、雪の重みでハウスが倒壊するなどの被害ができました。

また、市街地でも道路の除雪が間に合わない状況が丸一日続くなど、町民生活に影響ができました。

## NI・SPO主催

### 成田郁久美バレーボール教室



3月14日、スポーツセンターで、NI・SPOが主催する元全日本バレーボール選手成田郁久美（旧姓大懸）バレーボール教室が開かれました。

この教室は、近年町内でバレーボール少年団が結成されるなど、バレーボール人気が上昇していることから企画されたもので、参加者は、プロのアドバイスを受けながら熱心に練習していました。

## フランス出身シブ・ブルゾさん

### 朝日小学校で特別授業



3月20日、特別講師のシブ・ブルゾさんが朝日小を訪れ、1・2年生児童に対し、表現遊びの授業を行いました。

この授業は、より深い表現運動の経験と国際交流を目的に行われたもので、子どもたちは、ブルゾさんが発する音やリズムに合わせて、飛んだり、跳ねたり、走ったりしながら、それぞれの個性を表現していました。

## 地方創生の取り組みの資金として

### 苦小牧信用金庫より多額の寄附



3月20日、町の指定金融機関である苦小牧信用金庫より、町に対し200万円の寄附がありました。

この日、町長室を訪れた中屋功理事長は、「この寄付金を地方創生の取り組みに係る資金として活用していただき、地域の方々に還元していただきたい」と寄附の意向を小竹町長に伝え、目録を手渡しました。